

JGN II イベント利用報告書

イベント番号(188)

提出日 2007年2月10日

(1) イベント名

東北大学サイエンスカフェ（ネットワーク型サイエンスカフェ近郊分散型モデル）

(2) イベント概要

メイン会場（仙台メディアテーク）と市内サブ会場との映像及びアンケート等を用いた双方向性コミュニケーションと、その他の多くのサブ会場への映像配信を行い、開催及びモデル開発を支援する。

内容：

第16回東北大学サイエンスカフェ（11月17日（金）18:00～19:45）

テーマ：「T.E.A.M.」の真の意味

講師：マーティ・キーナート（楽天野球団チームアドバイザー、東北大学特任教授）

目的：

研究者自身による市民の双方向コミュニケーション活動であるサイエンスカフェ活動で、最先端ネットワークを活用することにより、複数の会場をインターネットで結ぶモデルを開発し、大学・高等学校・地元IT企業などが連携して、複数の会場をネットワークで結んだサイエンスカフェを開催する。この実証実験により、地域を自由に拡大しつつ幅広い世代・職業の人々が共に参加できるサイエンスカフェの開催が可能になることを検証する。

(3) JGN II 利用の概要

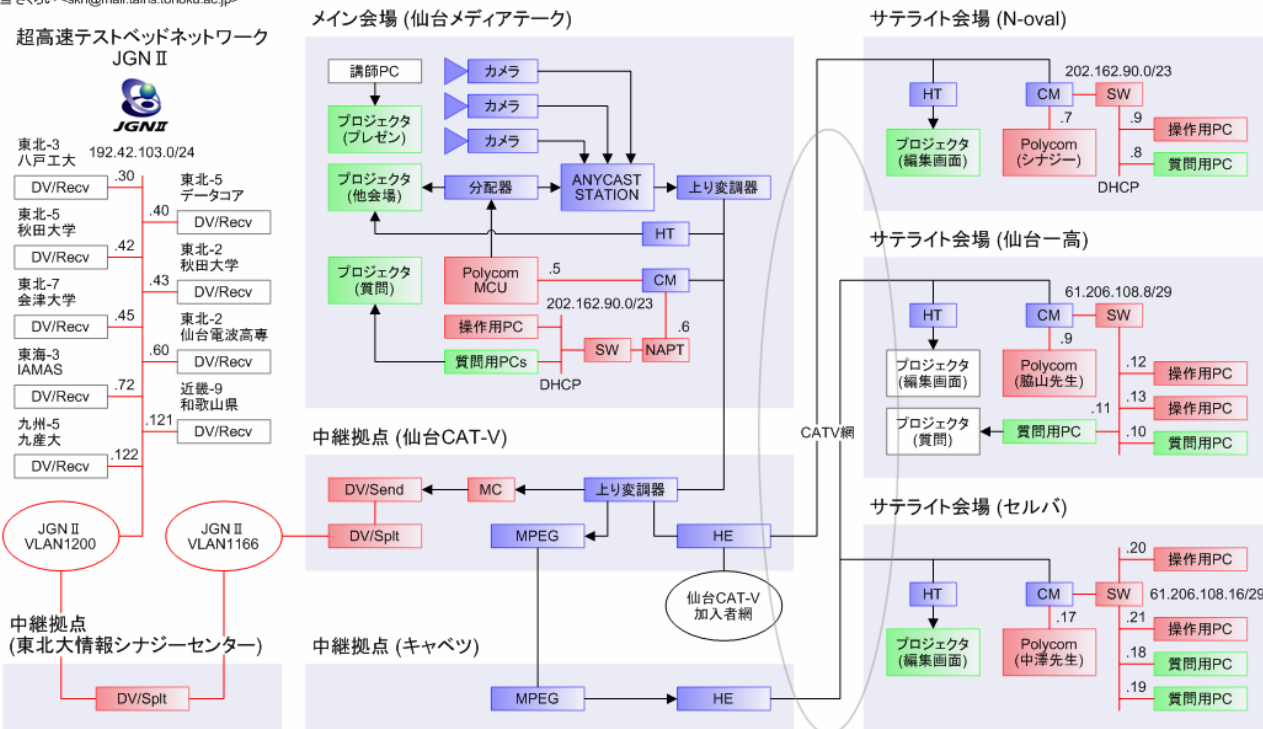
ネットワーク型サイエンスカフェを、市外サブ会場へDVTS等により配信をおこなった。



第16回 東北大学サイエンスカフェ
ネットワーク型サイエンスカフェ
映像配信ネットワーク構成図

2006年11月16日現在
担当 さくらい <skri@mail.tains.tohoku.ac.jp>

■ 配信チーム ■ CATVチーム ■ カフェチーム
— CATV上り/下り回線 — IP
メイン会場→サテライト会場：CATV下り回線
サテライト会場→メイン会場：Polycorn/CATV上り回線



試験期間：11月14日～11月16日、本番利用期間：11月17日

(4) 会場およびイベント参加人数

- ・メイン会場：せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア：聴講者約80名
- ・市内サブ会場（ネットワーク型サイエンスカフェ近郊分散型モデル）：聴講者計 約90名

場所	参加人数
セルバ(泉中央駅隣り) 2階センターコート	約10名
ノーバル[N-oval] (青葉区錦町 1-5-1) 1階フリースペース	11名
仙台第一高等学校 (若林区) (この会場は生徒・関係者のみ)	約70名

- ・市外サブ会場（JGN2により配信）：聴講者計 約60名

AP	場所	参加人数・内訳
東北-1	メイン会場：せんだいメディアテーク	約80名
東北-2	東北大学情報シナジーセンター	無人（中継拠点）
東北-2	仙台電波高専	学内3名、学外4名（ネットワーク経由）
東北-3	八戸工大	6名
東北-5	データコア	7名程度
東北-5	秋田県庁	6名
東北-5,2	秋田大学	10名
東北-7	会津大	6名、その他学内放送視聴あり
東海-3	IAMAS	7名
近畿-9	和歌山県情報交流センター	不明
九州-3	九州産業大学	9名(学内5、学外4)

（「地域間広帯域コンテンツ流通基盤実験」（JGN2-A16028）と「CATVコンテンツ流通実験」（JGN2-A17007）の参加機関を中心として、参加機関を募集。）

- ・市内放送：ケーブルテレビCAT-V チャンネルフォー（4）：加入5万世帯－視聴者数不明
この他、CAT-V本社前テレビ放映－通行人延べ100名くらい視聴

(5) 実施評価等

今回は近郊分散型モデルとして、仙台のメイン会場の他に、仙台市近郊の3サブ会場（仙台一高、セルバ、ノーバル）をネットワークで双方向に結び、さらにJGN2を使って市外会場に送出した。サブ会場の仙台一高には在籍の高校生や教員が、セルバはショッピングセンターであり買い物ついでの人々が、そしてノーバルはレストランであり食事やお酒を楽しむ人々が集った。サブ会場とメイン会場間はネットワーク会議システムを用意したため、直接講演者への質問が可能であり、どの会場からも活発な質問が寄せられた。このように幅広い世代・職業の人々が異なる場所から共に参加でき、大変意義深いサイエンスカフェとなった。

当日の準備の際に、ノーバル会場のネットワーク会議システムのマイクのトラブルがあり、メイン会場からの音声はCATV回線による放映映像と音声があるため大きな支障にはならないと判断し、急遽メイン会場のマイクをこれに充て、メイン会場の会議システムはマイク無しでの運用となった。このため、会話する際、音声ループによるハウリングが発生しないよう、サブ会場のスピーカーの音量を手動調整することでハウリングを未然に防いだ。（後日調査の結果、動作不良のマイクは故障ではなく、接続ケーブルをコネクタ形状の似た別のものと取り違えてしまったことが原因であったことがわかった。）

これを除けば、市内・市外への各サブ会場への映像配信に大きなトラブルも無く、会場の進行にも支障を与えることなく円滑なコミュニケーションが成され、映像配信の面においても成功であった。

並行して、東北リサーチセンターの研究開発の取り組みとして、地域間広帯域コンテンツ流通基盤実験、CATVコンテンツ流通実験、及びIPv6ネットワークによる遠隔情報流通基盤研究の一環として、映像配信ネットワークの構成と運用・統計情報統合化システムの実証実験およびデータ収集も行われ、有意義な計測結果を得ることができた。

(6) 開催模様等



メイン会場の様子



仙台一高



ノーバル



仙台 CAT-V



秋田大学



会津大学



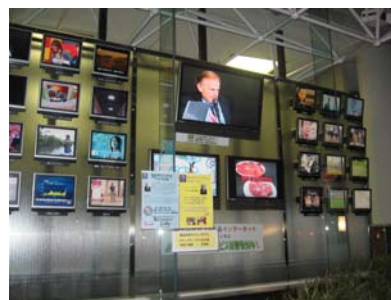
IAMAS



九州産業大



仙台 CAT-V (IP 再配信)



CAT-V 本社前での放映の様子

※ 関連資料

サイエンスカフェホームページ

www.cafe.tohoku.ac.jp

第16回東北大学サイエンスカフェのアンケート調査結果

<http://www.cafe.tohoku.ac.jp/docs/scafe-enquete16.pdf>

第16回東北大学サイエンスカフェのフォトアルバム

<http://www.cafe.tohoku.ac.jp/photodata16/index.htm>